

年月日

23

05 26

ページ

19

N O .



専務執行役員
関口 栄一氏

SMLFは幅広い金融サービスを提供するSMLFの中期経営計画を策定した。その中で、DX化による業務効率化と新規事業開拓が主な目標である。また、新規事業として「クラウド型資産管理」を強化する方針だ。

「クラウド型資産管理」は、SMLFがこれまで培ってきた金融サービスの実績を活用して、企業の資産運用をより効率的かつ柔軟に実現するためのシステムだ。具体的には、企業の資産情報を一元化し、リアルタイムで監視・分析ができる機能を提供する。これにより、企業は自社の資産状況を常に把握でき、リスク管理やポートフォリオ最適化などの意思決定を容易にすることができる。

関口氏によると、「クラウド型資産管理」は、SMLFの強みである融資機能と連携する点が大きな特徴だ。企業が融資を受ける際、SMLFはその資産情報を基に融資額や条件を決定する。また、融資を受けた企業は、SMLFを通じて資産運用を行うことで、融資の返済条件を達成する。

関口氏は、「クラウド型資産管理」によって、企業の資産運用をより効率的かつ柔軟に実現することができる。また、SMLFは、このシステムを通じて、企業の資産運用をより効率的かつ柔軟に実現することができる。また、SMLFは、このシステムを通じて、企業の資産運用をより効率的かつ柔軟に実現することができる。

クラウド型資産管理強化

三井住友ファイナンス&リース（SMFL）は、2025年度までサステナブル（持続可能な）関連ビジネスの累計契約額で兆円を目指す。目標達成の時期を從来計画よりも4年前倒しすることを決定し、組織構造でサーキュラーモード（循環型経済）を推進する部署を新設した。幅広い金融機能を持つ強みを生かして社会課題を解決するアプローチを強め、25年度の经常利益を450億円（22年度比6.2%増）に引き上げる。

傘下のSMFLは、常からリースファイアーハウス（推進）、パートナーズ（東京）、ナンスの提供を通じて、都市再生田区が25年内に太陽光発電事業を生む。手掛けた強みを活用して、新設したサーキュラ

ス手法や賃貸戸数、用を前提としたサービス事業の立ち上げなど、再生可能エネルギー、再生事業が拡大している。

脱炭素化に注力する一方で、来ら割増の90万円で、引き上げるなど、再生可能エネルギー、再生事業が拡大している。

SMLFは幅広い金融サービスを提供するSMLFの中期経営計画を策定した。その中で、DX化による業務効率化と新規事業開拓が主な目標である。また、新規事業として「クラウド型資産管理」を強化する方針だ。

「クラウド型資産管理」は、SMLFがこれまで培ってきた金融サービスの実績を活用して、企業の資産運用をより効率的かつ柔軟に実現するためのシステムだ。具体的には、企業の資産情報を一元化し、リアルタイムで監視・分析ができる機能を提供する。これにより、企業は自社の資産状況を常に把握でき、リスク管理やポートフォリオ最適化などの意思決定を容易にすることができる。

サステナブル連携契約1兆円

25年度めど SMLF、4年前倒し

ス製品の開発に向けた施設を新築する

業界で初めてS

MART（名古屋市西区）といったルート

企業とも連携。製造業

と販売、環境

サステナブルに向けた協議を始めた。

低金利が実現する

中、SMLFは既存の

リースファイナンス

用を前提としたサービ

ス手法や賃貸戸数、

事業の立ち上げなど、

低投資事

数を22年度比2・6倍

